

生物学的窒素・リン除去(6) (3-D-10-4~3-D-12-1)

本セッションは、生物学的窒素・リン除去に関するセッションであり、5件の発表があった。そのうち、(1)リン除去細菌の分離培養法や定量法を扱ったものが2件、(2)リン除去機構を扱ったものが2件、(3)処理法が2件であった。(1)では新たな分離培養法として、中空糸メンブレンを用いたHFMSシステムを開発した独創的な発表と、ポリリン酸蓄積最近の1種である *Candidatus Accumulibacter phosphatus* の定量PCR法を検討した発表があり、これらを用いた今後のリン除去機構に関する研究の進展が大いに期待できる内容であった。(2)の除去機構に関する発表のうち、新たに開発したチューブリアクターを用いて嫌気・好気時間の影響をみたものは、その着眼点が独創的であった。また、リン蓄積細菌による亜硝酸の好気脱窒を扱ったものは、綿密な実験計画の基に多くの実験を行った結果から、PAOsの脱窒能を高めることにより亜硝酸によるリン除去阻害を緩和することができるという結論を導いたものであり、非常に興味深い内容であった。(3)は好気性グラニュールを用いた畜産排水処理とリン蓄積酵母を用いた焼酎蒸留粕の処理を扱ったものであり、高濃度リン含有排水の処理法のひとつとして注目できるものであった。いずれも若手の研究者が熱意をもって研究を重ねた成果を発表したものであり、将来性が期待される。また、いずれの発表でも、活発な討議が行われ、注目度の高いセッションであった。

(金沢大学大学院・自 池本 良子)